

■天智天皇(中大兄皇子) てんじてんのう 蘇我馬子没・626＝	38代天皇。クーデタで実権を握り、律令体制への改革を進めたが、志し半ばで早世。 生。舒明天皇の子、母は宝皇女(のちの皇極天皇)。異母兄に古人大兄皇子、同母弟に大海人皇子がある。
・ ・ ・ ・ ・ 635＝ 9歳：	
・ ・ ・ ・ ・ 641＝15歳：	舒明天皇が死去したとき、葬儀で弔辞を読み、天智は皇位をつぐ資格はあったが、皇位は結局、皇后宝皇女(皇極)がついだ。当時、東アジアでは朝鮮をめぐる国際環境が急転回し、
皇極天皇即位 642＝16歳：	唐の圧迫のもとで起こった高句麗の政変、高句麗・百済対新羅の紛争を発端として、動乱の時代となり、日本も強大な唐に対抗して国力強化の必要が迫られるなか、
蘇我入鹿の乱 643＝17歳：	大臣蘇我入鹿は皇位継承の有資格者山背大兄王を襲撃して滅ぼすと、中臣鎌子(のちの藤原鎌足)は天智に接近して蘇我氏打倒の計画をすすめた。天智は入鹿と対立する蘇我石川麻呂の娘を妃として勢力を固め、大陸の新知識を学び、政治の改革にそなえ、
・ ・ ・ ・ ・ 644＝18歳：	
乙巳の変・ 645＝19歳：	*クーデタをおこし、飛鳥板蓋宮で入鹿を暗殺し、蘇我氏本宗家を滅ぼした。皇極天皇は退位し、天智は皇極の弟の孝徳天皇を擁立し、自分は皇太子となり、阿倍内麻呂と蘇我石川麻呂を左右大臣、鎌足を内臣、僧旻らを国博士、年号を大化と定めて、さらに都を飛鳥から難波へ移し、政治の改革に着手した。
改新の詔・ 646＝20歳：	孝徳の治世10年の間に、政治の改革は多くの点で進み、天皇の権力は強化され、官制も整備され、冠位は13階、さらに19階の制が施行され、地方では国造の支配した国にかわって郡の前身となる評が置かれた。
・ ・ ・ ・ ・ 652＝26歳：	壮大な規模の難波長柄豊碕宮も完成。
第2回遣唐使 653＝27歳：	
中臣鎌足紫冠 654＝28歳：	孝徳が死去すると、都を飛鳥に戻し、
齐明天皇重祚 655＝29歳：	*皇極を重祚(齐明天皇)させ、実権を握った天智は皇太子のまま政治をとり、
有間皇子謀殺 658＝32歳：	阿倍比羅夫を遣わして蝦夷を討ち領土の開拓につとめ、
百済滅亡・ 660＝34歳：	朝鮮では百済が唐と新羅に滅ぼされ、中大兄は百済再興の援軍を送ったが、
朝鮮出兵・ 661＝35歳：	救援軍派遣中に齐明天皇は死去し、即位の式をあげずに政務をとった(称制)。
・ ・ ・ ・ ・ 662＝36歳：	
白村江の戦 663＝37歳：	*救援軍は白村江で大敗した。
	唐の来襲に備えて大宰府に水城、要衝の地に朝鮮式山城を築き、国際的緊張の高まるなかで律令制度の摂取と、国政の改革をおしすすめた。
大津京遷都・ 667＝41歳：	都を近江の大津に移し、
興福寺・ 668＝42歳：	正式に即位。同母弟大海人皇子(のちの天武天皇)を皇太子(皇太弟)とした。前後して唐・新羅と国交を回復し、改新政治を前進させ、
庚午年籍・ 670＝44歳：	庚午年籍を作成、
天智天皇没・ 671＝45歳：	*近江令を施行。子の大友皇子を太政大臣として後継者としようとしたが、体制の固まらぬうちに没した。